

## 消防本部紹介



# 「自然と歴史ロマンあふれる地」

上田地域広域連合消防本部

## 1 はじめに

上田地域広域連合は上田市を核に、東御市、長和町、青木村の2市1町1村で構成されています。長野県の北東部に位置し、一部が群馬県に接するほか、周囲は佐久・諏訪・松本・長野の4圏域に隣接しています。面積は、県下の約7%を占めており、四季の変化に富む山々や高原に囲まれ、中央を千曲川（信濃川）が地域を二分する形で東西に流れています。

気候は、昼と夜の気温差が大きい典型的な内陸性気候で晴天日が多く、雨量は、年間平均約900mm前後と全国的にみても少雨地帯なのが特徴です。

圏域人口は、206,307人（平成23年4月1日現在）で県全体の約10%を占めています。

地域産業の工業は、乾燥・少雨の気象条件を

活かし自動車関連、電気機械、一般機械器具等を中心として、製品出荷額は県下の約11.5%を占め、農業は標高差等の自然条件やバイオ技術、



三大都市圏の近郊という立地条件を活かし、付加価値の高い野菜、果樹、花木等の生鮮農産物等の供給基地として発展しています。

交通網は、上信越自動車道、長野新幹線、一般国道18号線が東西に横断し、その他国道、主要地方道、県道等が圏域内外を結んでいます。

## 2 上田市の概要

上田市は歴史が古く、大和時代には国造（くのみやつこ＝知事）がこの地に派遣され、科野国（しなののくに＝信濃国の古名）の政治・文化の中心地になっていたと言われています。奈良時代には、国分寺が建立されましたが、信濃国で最初の国府が置かれた地ではないかと考えられます。鎌倉時代に入ると、幕府の信濃守護職、北条氏が塩田に居を構え、三代60年に渡り鎌倉の仏教文化を花咲かせました。この塩田平は『信州の鎌倉』といわれ、日本で唯一の八角三重塔（国宝）の安楽寺をはじめ、多くの歴史的建造物、史跡が残されています。

戦国時代、真田氏は武勇に優れた智将として全国にその名を轟かせ、日本の歴史の要所に影響を与えました。1583年に上田城（写真2）を

築いた真田昌幸は、徳川軍の侵攻を二度にわたって退けました。さらに、その後の大阪冬の陣・夏の陣での真田幸村（写真3）らの活躍は、今も城下町上田の誇りとして、市民の心に深く刻まれています。関ヶ原の戦いに際しては親子兄弟が東西に分かれて戦いましたが、西軍が敗れたものの、昌幸と幸村はその名を天下に轟かせ、一方で幸村の兄信之は真田家を存続させ、松代移封後も真田氏は明治維新まで続きました。現在上田城は公園として整備され、ケヤキ並木や千本桜の名所として観光の拠点となっています。また、戦国時代の武将に心魅かれる



写真2



写真1



写真3

20～30代の女性、いわゆる「歴女」たちが戦国ヒーロー真田幸村の足跡にふれるため訪れています。

当時の城下町形成により上田地域は政治・文化の中心、物資の集散地として栄えました。その中で、養蚕業の発達とともに上田紬は日本の三大紬とうたわれるほどの発展をみせ、さらに明治から大正時代にかけては全国有数の蚕種<sup>さんしゆ</sup>の生産地となり、全国の蚕糸業を支える「蚕都」として隆盛を極めました。

現在は平成18年3月に小県郡丸子町、真田町、武石村と合併し新生上田市となりました。総合的な都市機能を高め、活力あふれる賑わいと交流の拠点づくりを進めるため、上田駅周辺の再開発を行い、市街地の活性化と商業の振興を一体的に推進しています。

また、一方では、上田地域は豊かな自然環境に加え全国的にも稀な少雨地帯であること、歴史的な家並み等日本の原風景が数多く残っていることから、映画やドラマ等の舞台になり、撮影が行われています。また、上田市を舞台としたアニメ映画「サマーウォーズ」は、多くの観客動員数を記録し、世界的にも高い評価を得て、信州上田の風景を一目見たいと多くの観光客が訪れています。

### 3 東御市の概要

東御市は、小県郡東部町と北佐久郡北御牧村の2町村が合併して、平成16年4月に誕生しました。

古くから馬の産地として知られ、平安時代の信濃御牧（官牧）十六牧の中でも、最も貢馬が多かったと伝えられており、中世には東信地方一帯を支配してきた海野氏をはじめ、望月氏、布下氏、諸沢氏によって統治されてきました。また、日本の道百選に選ばれた北国街道海野宿は江戸時代の旅籠屋造りと、明治時代の蚕室造りの堅牢な建物が今なお残っており、現在では

観光の要所となっています。

また、東御市出身者として江戸時代の大関「雷電為右衛門」(写真4)がおります。力士生活21年、江戸本場所36場所中、通算で喫した黒星がわずかに10、勝率は9割6分2厘であり、大相撲史上最強力士に推す意見が多く、今でも市民に愛されています。現在市内には雷電の生家(写真5)や雷電顕彰碑等のゆかりの史跡が残っています。

市の北部にかかる上信越高原国立公園の「湯の丸高原」は、レンゲツツジの大群落、コマクサ、アヤメ、マツムシソウなど、多種類に及ぶ高山植物の宝庫で、フラワートレッキングに最



写真4



写真5

適の花高原として親しまれています。冬季は首都圏に近いスキー場として賑わいます。

特産品には、くるみ（シナノグルミ）、巨峰や薬用人参などがあり、全国でも有数の農作物が多くあります。

#### 4 長和町の概要

長和町は、平成17年10月に小県郡長門町と同郡和田村が合併して誕生しました。以前から旧中山道沿いの宿場町として、さらに旧石器時代には「黒曜石」の産地として深いつながりがありました。

黒曜石はガラス質で星のようにキラキラと輝き美しいものです。古代の人々は割れ口が鋭く加工しやすいこの石を求めて一万八千年も前から多くの人が集まっていたそうです。

長和町には江戸板橋宿から数えて27番目の長久保宿と28番目の和田宿の二つの旧中山道宿場町があります。笠取峠と特に険しい和田峠をひかえて、多くの旅人や大名がここで一息入れて旅を続けていきました。両宿場は当時の面影を強く残し、旅籠の出桁づくりや屋号看板が当時の賑わいを語ってくれます。

また、素晴らしい自然環境に恵まれ、標高2000mに広がる高原台地の美ヶ原高原に加え、東京ドーム約45個分の牧草地を持つ長門牧場があります。さらにはスキー場が2つあり、季節風の影響が少なく標高が高いため雪質がよく、晴天率が良いため気持ちよくスキー、スノーボードが楽しめます。このスキー場で育った藤森由香選手はスノーボードクロス選手としてオリンピック代表選手として活躍されています。

#### 5 青木村の概要

青木村は美しい山々に囲まれた農山村です。古くから「夕立と騒動は青木から」と言われるように、青木村では江戸時代から明治にかけて5回もの農民一揆が起こっており、一地域とし

ては日本で最も一揆が多発した村でもあります。自ら命を顧みず庶民の為に立ち上がり、正義を貫いた先人を誇りとし義民太鼓を創設、村をあげて義民精神を顕彰しています。

村内には国宝大法寺三重塔があります。別名「見返りの塔」という名で親しまれています。この名は、塔の姿があまりにも美しいので、思わずふり返るほどであるという意から、つけられたといわれています。建立年は鎌倉時代末期の正慶2年（1333年）であり、6世紀を超える時の流れの中にさらされながらも、今もなおその美しい姿に、観るものの心を引き付けます。

さらに田沢温泉、沓掛温泉と2つの温泉地があり、多くの観光客が訪れています。田沢温泉は昔から子宝の湯として、また乳の出が良くなる温泉としても知られています。もう一つの沓掛温泉は平安時代、国司の滋野親王が目を患い入浴したところ完治したので、薬師堂を建立し、開湯されたという歴史があり、両温泉ともに古くから湯治場として愛されています。

#### 6 消防本部の概要

昭和47年4月1日に広域市町村圏事業の一環として上小地域広域行政事務組合消防本部として発足しました。

現在は上田地域広域連合消防本部と名称が変わり、1本部（総務課、予防課、警防課）、8消防署、職員総数194人の体制で消防団と連携しながら、あらゆる災害から地域住民の生命、財産などを守るため日夜努力をしております。

平成22年中の火災件数は60件、救急出動件数は8,191件、救助出動件数は63件となっています。

管内の危険物施設は、1,207施設（表1：平成23年4月1日現在）で、近年減少傾向ではありますが、機械金属工業や精密電気機器等の工場地域があるため、多種様々な危険物の種類を扱っています。

表 1

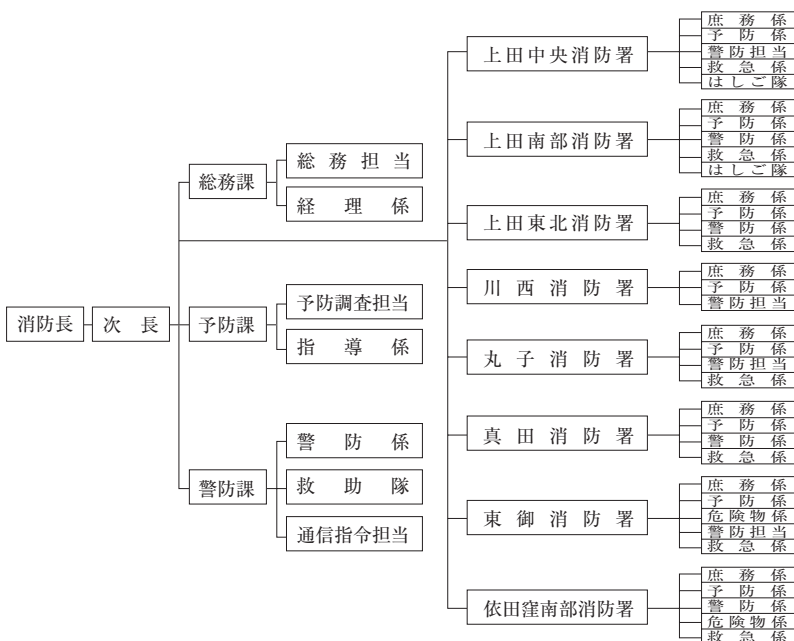
製造所等の別		施設数
製造所		0
貯蔵所	屋内貯蔵所	99
	屋外タンク貯蔵所	152
	屋内タンク貯蔵所	11
	地下タンク貯蔵所	453
	簡易タンク貯蔵所	0
	移動タンク貯蔵所	177
	屋外貯蔵所	13
取扱所	給油取扱所	155
	第一種販売取扱所	1
	第二種販売取扱所	1
	移送取扱所	0
	一般取扱所	145
合 計		1,207



名が亡くられました。この火災を教訓として、研修会や訓練を実施し、二度と起こらないように防災と指導に努めています。また、今年3月11日に発生した東日本大震災、またその翌日には、長野県北部を震源とする地震が発生し、甚大な被害が出ています。このような地震は、この先、いつ、どこでも起こりうるということを念頭に置き、地域住民の生命、財産を守り、安心、安全なまちづくりを目指してまいります。最後に東日本大震災及び長野県北部地震で被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

## 7 おわりに

平成6年10月9日に当消防本部管内で、危険物施設油槽所のオイルタンク火災が発生しました。当日、油槽所で工事作業していた関係者3



上田地域広域連合消防本部組織図